

「病魔の克服と健康増進に先端技術で挑戦することにより世界に貢献すると共に社員の豊かな生活を創造する」という経営理念のもと、持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指し、3か年中期経営計画「BEACON 2030 Phase II」をスタートしました。

■3つの指標・6つの重要施策

①成長性	②収益性	③資本効率性
売上高CAGR (24/3-27/3期) 5%	営業利益率 (27/3期) 15%	ROE (27/3期) 12%
製品競争力の強化	全社収益改革の実行	日本光電版ROICの導入
北米事業の成長に注力	グローバルサプライチェーンの進化	キャッシュ・コンバージョン・サイクルの短縮

全社収益改革を実行することで、成長領域への投資を本格化し、グローバルメドテック企業への変革を加速

サステナビリティ経営の実践

医療課題

環境課題

社会課題

①成長性

製品競争力の強化

- 主力の生体情報モニタリング事業の強化、高成長が期待できる人工呼吸器を含む治療機器事業、消耗品・サービス事業、DHSを含むソリューション事業の拡大に注力
- 技術基盤の強化、新製品開発期間の短縮

北米事業の成長に注力

日本	顧客価値提案の高度化による、顧客基盤の強化と持続的な成長
北米	大手IDN/GPO市場、DoD/VA市場深耕によるブランド認知度向上と収益改革
海外	医療機器に関する法規制対応、現地開発・生産・販売・サービス体制の強化

※ IDN(Integrated Delivery Network) : 総合医療ネットワーク、GPO(Group Purchase Organization) : グループ購買組織。
DoD(Department of Defense) : 米国国防総省、VA(Veterans Affairs) : 米国退役軍人省。

売上成長の内訳と成長ドライバー

		24/3-27/3期 CAGR	
地域別	日本	1,570億円	3% 持続的な安定成長
	北米	500億円	11% 成長ドライバーとして位置付け
	中南米	60億円	0%
	欧州	140億円	2%
	アジア州他	290億円	7%
商品群別	生体計測機器	530億円	4%
	生体情報モニタ	980億円	5% コア事業として注力
	治療機器	630億円	7% 人工呼吸器事業の拡大
	その他	420億円	2%
	うち消耗品・サービス		1桁半ば
	うちソリューション		1桁半ば

※ 想定レート：1米ドル=140円、1ユーロ=150円。

②収益性

全社収益改革の実行

- 商品ミックス、生産性、サプライチェーンの改善に向けた各種施策を実行

グローバルサプライチェーンの進化

- PSI(生産・販売・在庫)管理を高度化、グローバルQMS(品質管理システム)の強化、マルチプラント生産の推進

領域	テーマ	施策の内容(例)	改革目標値
商品ミックス	営業プライシング	・国内外で価格政策の見直し	2% 程度
	製品ラインアップの整理	・品目数の見直し、適正化 ・自社品売上高比率の向上	
生産性	人員生産性の向上(含む生成AI)	・生成AI導入による業務の効率化：140万時間/年 ・コア業務への集中、リソースの再配置：90万時間/年 ・人員増の抑制、残業時間の削減	2% 程度
	経費の削減	・光熱費・賃借料・通信費などインフラ費用の削減、旅費交通費の見直し	
サプライチェーン	部品調達最適化	・サプライヤーとの価格交渉の高度化 ・Value Analysis/Value Engineeringの推進	1% 程度

③資本効率性

日本光電版ROICの導入

- 利益率改善と投資対効果のモニタリング強化

キャッシュ・コンバージョン・サイクルの短縮

- 新設した生産本部を中心に、調達・生産管理機能を強化。債権回収の早期化

日本光電版ROIC 計算式

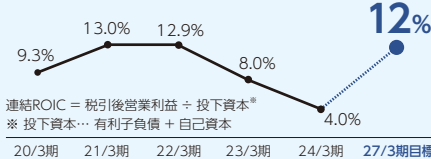
営業利益

投下資本

(将来投資*+売掛金+在庫+固定資産-買掛金)

※ 直近3年間の研究開発費・人件費

連結ROIC



Phase IIでは資本コストを7%と保守的に設定、IRR12%目標

中期経営計画 Phase II 目標
CCC ~175日

中期目標
CCC ~150日

- 医用電子機器関連の単一事業のため、個社(個別部門)単位で管理
- B/S外の研究開発・人件費(直近3年間)を将来投資と見なし、中長期的視点で効果測定
- 個社別ROICの把握、社内浸透を図る